

山地性バラ科樹種の細枝に接種した クビアカツヤカミキリ孵化幼虫の発育

法眼利幸¹, 北島博², 勝木俊雄³

¹和歌山県林業試験場 649-2103 和歌山県西牟婁郡上富田町生馬 1504-1

²森林総合研究所森林昆虫研究領域 305-8687 茨城県つくば市松の里 1

³森林総合研究所多摩森林科学園 193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81

Growth of an alien long-horned beetle, *Aromia bungii* hatchlings inoculated into smart twigs of montane rosaceous tree species

Toshiyuki Hougen¹, Hiroshi Kitajima², Toshio Katsuki³

¹ Wakayama Prefectural Forestry Experiment Station, 1504-1 Ikuma, Kamitonda, Wakayama 649-2103

² Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687

³ Tama Forest Science Garden, Forestry and Forest Products Research Institute, 1833-81 Todorii, Haschioji, Tokyo 193-0843

摘 要

外来種であるクビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の, 山地性バラ科樹種に対する幼虫の寄主としての適合性を解明しておくことは, 被害拡大リスクの管理のために重要である。バラ科 16 樹種の細枝(切枝)にクビアカツヤカミキリ孵化幼虫を接種し, 41 日後の生存と発育状況から寄主適性について評価した。各樹種における幼虫生存率は 68~96%であった。各樹種における生存幼虫の生重は, 個体によるばらつきが大きかった。樹種間で比較すると, オオヤマザクラとバクチノキではほかの樹種に比べて幼虫生重が大きく, ビワがミヤマザクラより小さかったものの, その他の樹種の間には有意な差は見られなかった。以上から, クビアカツヤカミキリの孵化幼虫は, 日本の山地性バラ科樹木において穿孔・摂食して生存し続ける可能性があると考えられる。今回, 供試したカスミザクラを除くサクラ属樹種は, '染井吉野' と同等に幼虫の発育が良かったことから, クビアカツヤカミキリ幼虫の寄主としての適合性があり, クビアカツヤカミキリの分布が山地へ拡大すれば '染井吉野' と同様な被害が発生する可能性がある。